



古田肇

1947年岐阜市生まれ

通商産業省(現経済産業省)入省。羽田、村山内閣首相秘書官、外務省経済協力局長などを経て2005年岐阜県知事に就任、現在3期目

高橋尚子

1972年岐阜県生まれ

98年名古屋国際女子マラソンで初優勝。2000年シドニー五輪で金メダルを獲得、08年現役引退。日本陸上競技連盟理事

## スポーツを通じた 岐阜県の未来について

東京オリンピック・パラリンピックに向けた  
岐阜県の取り組み

「飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアを実際にご覧になって、高橋さんのご感想はいかがですか。」  
高橋 — 今回、初めて走ってみて想像以上に素晴らしい場所だと感じました。景色が良く、緑や鳥のさえずり、空気が、川、音、すべての環境が選手を後押ししてくれる場所です。

御嶽は四つのうち、二つのゾーンに全天候型四百メートル競技場があり、中でも六レーンある「御嶽パノラマグラウンド」は、ウッドチップと土のコースまであります。試合にも対応でき、レベルの高い練習にも十分です。「池ノ原クロスカントリーコース」のうち整備されているコースは、トップアスリートとして早いペースにも対応可能です。もう一つの自然そのままにしてあ

るコースは「足元が悪い」といわれていましたが、むしろ木の根っこや石、落ち葉を目で判断することで集中力が高まり、足の筋肉を養うことができ、野原をしつかり走れる脚力が世界に通じる大切な要素になります。

一流選手しかできないという高地トレーニングのイメージですが、近くて安く、ストレスが少なく、日本食が食べられ、しかも温泉があることは大学生や高校生選手にとって最高の環境です。高地トレーニングは二週間しか効果がないため、東京オリンピック・パラリンピックに向け、直前まで日本で練習ができるのは大変効果的です。

古田 — 御嶽は文部科学省が認定した施設であり、当初は年間千人前後の利用でしたが、知名度が上がり、今や二万人を超えています。大阪世界陸上と北

京オリンピックではフランスの代表選手が事前キャンプ地として活用した実績もあります。高橋さんには、トップアスリートのためにさらに充実すべき点を指摘していただきたいと思っています。

高橋 — ほぼ完璧だと思いますが、マラソン選手には既存の尚子ロードでは短いので、もう少し延ばして三十、四十キロのコースが取れると良いと思います。また、看板のないコースには、スタートや五キロごとに表示をし、一キロごとに、小さな石を埋め込んで景観を壊さないような表示があればと思います。

古田 — 広いエリアですから活用については多様な方法が考えられると思いますね。

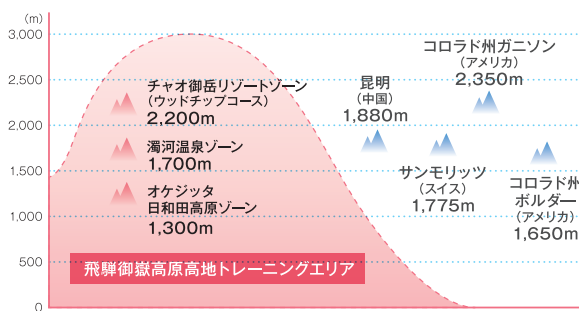
高橋 — 御嶽で練習を積んだ選手が日の丸を付け、御嶽高原エリアがメダリストを輩出するような場所になるのではないかと一層感じました。

古田 — 私も自信を持って御嶽高原エリアのトップセールスをしたと思います。また、このほかにも飛騨市の数河高原にラグビー場、海津市には世界選手権を実施した六千メートルのレガッタコースがあります。本県には国体を二回行う中で蓄えたさまざまな地域資源があります。これらをオリンピックに向けて生かすことで、今度は「御嶽育ち」などとして岐阜県の魅力が広がっていくとうれしいですね。本日はありがとうございました。

## 「飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアって何？」

標高1200mから2200mに位置し、バラエティーに富んだ施設やコースで、それぞれの標高に合わせたトレーニングが可能なトレーニングスポット。標高1700mに御嶽パノラマグラウンド、1300mに日和田ハイランド陸上競技場と、2つの全天候型陸上競技場を完備し、1400mには、起伏に富み脚力強化につながる「池ノ原クロスカントリーコース」があります。

■世界の高地トレーニングエリアとの標高比較図



高度・コースのバリエーションは  
世界随一!



御嶽パノラマグラウンドにて残雪の山をバックにランニングする高橋氏